

## **【参考資料】 東日本大震災を踏まえた道路の役割と課題**

# 1. 道路の果たした機能 ①過去の教訓を活かした道路整備などが奏功

・三陸縦貫自動車道のルートは、過去の津波を考慮して高台に計画されていたため被災せず、地域住民の避難路や緊急輸送等に貢献。



三陸縦貫自動車道(開通率51%)の部分供用区間が、住民避難、復旧に貢献

- ・釜石山田道路 4.6km (H23.3.5開通)
- ・唐桑道路 3.0km (H22.12.19開通)
- ・宮古道路 4.8km (H22.3.21開通) 等

釜石市長の発言 (H23.4.12衆議院総務委員会より)

児童生徒たちは、高台への避難場所に逃げた後、瓦れきて埋まり、また津波で破壊された国道45号で立ち往生することなく、この自動車道を歩いて市内の避難施設までたどり着くことができました。この地域の住民も同様であります。また、被災後はこの自動車道を通じて救急患者が搬送され、さらには避難所に救援物資を運ぶ道路として、まさに命をつなぐ道として機能したところであります。

<災害に強い高規格道路として>

- 救援・救助活動を支援
  - ・自衛隊等の緊急車両の到達を可能とし、沿岸市町村への 救援ルートを確保
- 復旧のための物資輸送道路として機能
  - ・食料、医療品、燃料等の救急救援物資を防災拠点、避難所に届ける緊急輸送路として機能



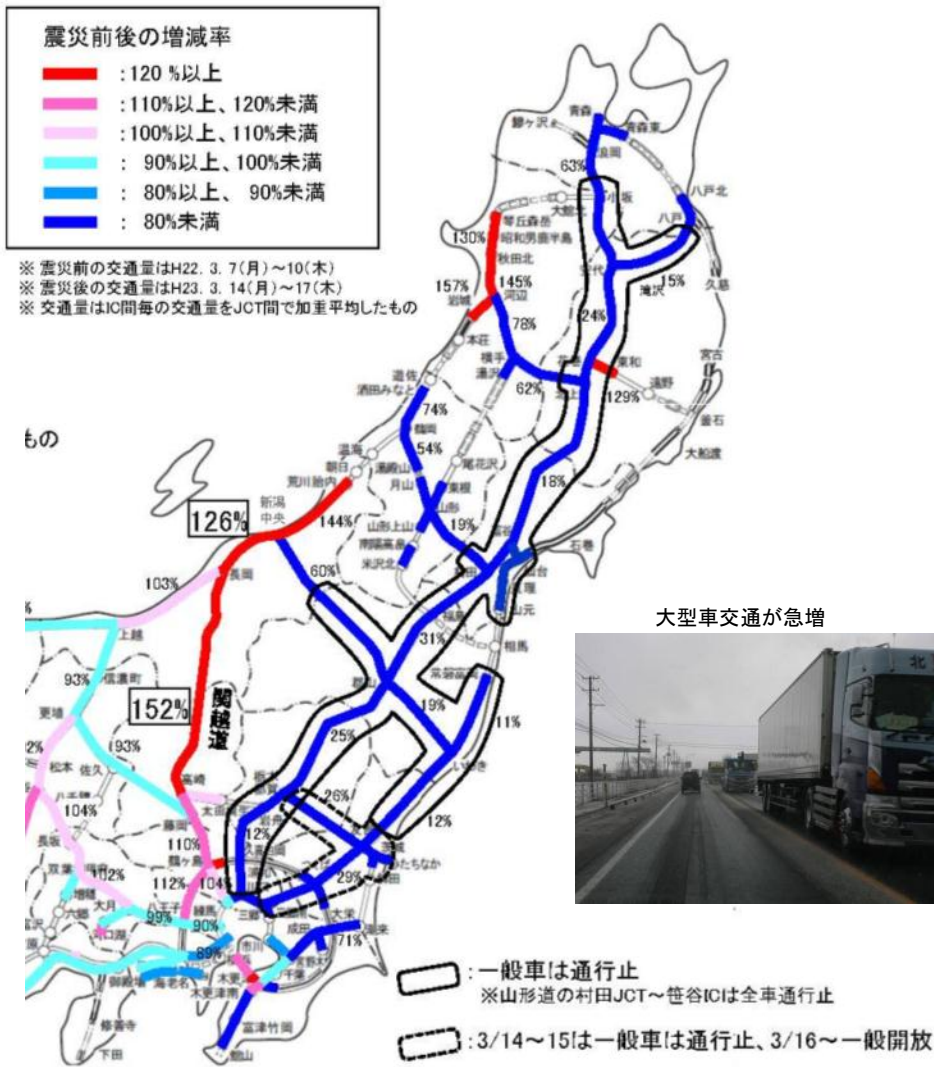
<副次的にも機能する公共インフラとして>

- 発災直後の住民の避難場所として機能
  - ・宮古道路では、住民約60人が盛土斜面を駆け上がり道路に避難
  - ・釜石山田道路では、小中学校の生徒・地域住民が自動車道を歩いて避難

# 1. 道路の果たした機能 ②日本海側の物流網が太平洋側の代替ルートとして機能

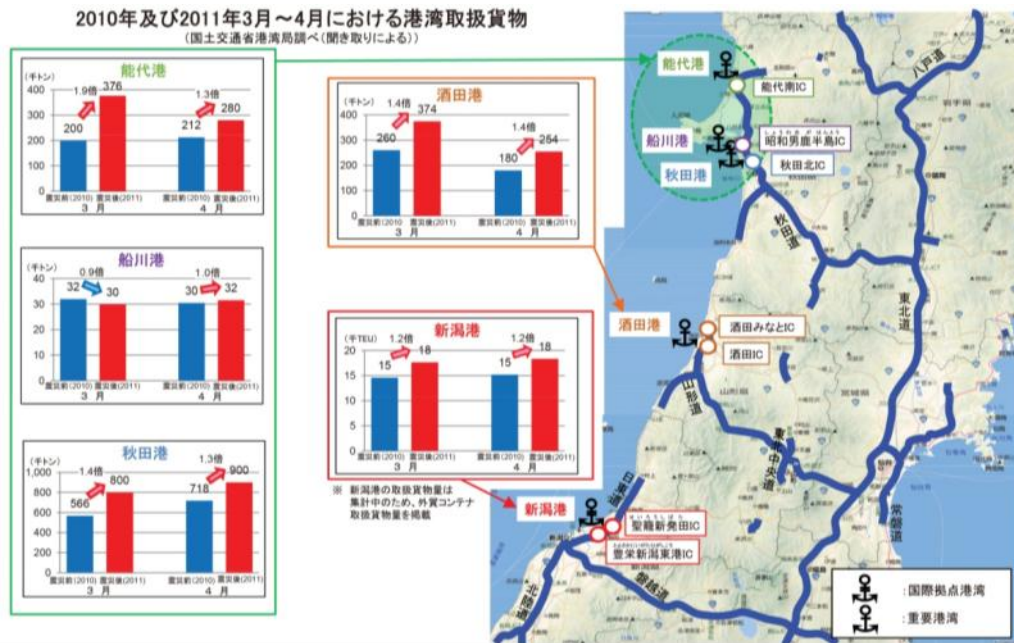
- ・大震災後、大型車交通量は、関越自動車道で1.5倍、日本海沿岸東北自動車道で1.3倍に増加。
- ・港湾取扱貨物量は、新潟港で1.2倍、秋田港で1.4倍に増加。

## ●東日本大震災直後の大型車交通量の変化



## ●東日本大震災前後の港湾取扱貨物

- ・東日本大震災発生時には、日本海側港湾の取扱貨物両が大きく増加



出典: 第4回 高速道路のあり方検討有識者委員会資料

・・・港湾を例にとっても、太平洋側が空洞化しつつあり、日本海側の港湾に物流が移りつつあります・・・こういう構図からも日本海国土軸という言葉が重要になってきており、国土計画に日本海側を視界においた東アジアとの連携を盛り込まなければいけない時代がきている。・・・

財団法人 日本総合研究所会長 寺島実郎氏  
 平成19年1月16日 篠田昭 新潟市長との特別対談

# 1. 道路の果たした機能 ③道路インフラが副次的な防災機能を発揮

- ・仙台東部道路は、周辺より高い盛土構造が津波の避難場所として機能したほか、内陸への瓦礫流入を抑制。
- ・ICと一体開発された施設や道の駅が、自衛隊の活動拠点や住民の避難場所として機能。

## ○ 道路インフラが副次的に機能

- ・海岸から4キロ付近まで津波が押し寄せた仙台平野では、周辺より高い盛土構造(7~10m)の仙台東部道路に、約230人の住民が避難
- ・仙台東部道路の盛土は、内陸市街地への瓦礫の流入を抑制する防潮堤としても機能

仙台東部道路付近の浸水状況



岩沼IC付近

名取IC付近



震災後、名取IC～仙台若林JCT周辺の5箇所に、津波時の避難に活用できる仮設階段を暫定的に設置(設置時期：平成23年5月)

## ○ 「道の駅」が防災拠点として機能

- ・「道の駅」が、自衛隊の活動拠点や住民の避難場所、水、食料、トイレを提供する貴重な防災拠点として機能
- ・防災拠点化のために自家発電設備を備える駅では、停電時にも24時間開所する等により機能

<自衛隊の復旧支援活動の拠点として機能する道の駅「津山」>



## 東日本大震災における「道の駅」利用の具体例

道の駅名	所在地	路線名	対応の例
三本木	宮城県大崎市	4号	自家発電により24時間開館し、おにぎり、菓子等を提供。情報館にて避難者を受け入れ。
津山	宮城県登米市	45号	自衛隊やレスキュー隊の前進基地、支援隊員への炊き出しの実施。南三陸町のホテル客が避難。
ふくしま東和	福島県二本松市	349号	おにぎり等食料、トイレ、給水サービスを提供。避難住民1500人を受け入れ。
喜多の郷	福島県喜多方市	112号	給水サービス、食事販売、日帰り温泉施設を被災住民に無料開放。
南相馬	福島県南相馬市	6号	避難所として開放、災害応援の拠点として機能。
ひらた	福島県平田村	49号	避難住民に無料で電源、水を提供。村内の病院や避難所に食材を供給。

## ○ ICと一体で開発された周辺施設の防災機能の発揮

- ・南三陸町では、IC予定地に一体的に整備された施設が防災機能を発揮



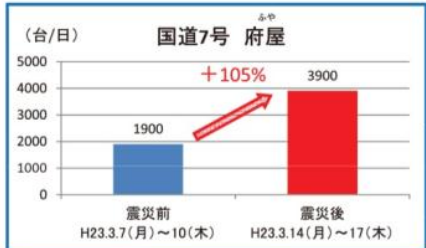
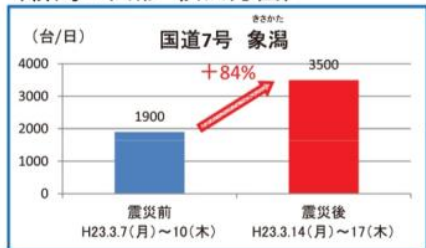
- 【東日本大震災において発揮した機能】
- 災害対策本部、避難場所、救急物資の収集場所として機能
  - 行政、医療団体、自衛隊、警察、ボランティア等の活動拠点として機能
  - 役場壊滅により役場機能移転(3/25～仮庁舎設置) 等



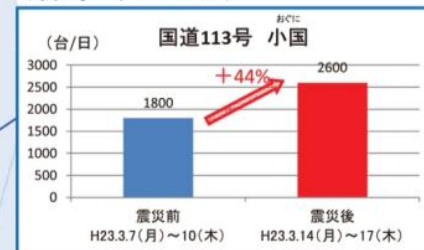
## 2. 道路整備の課題 幹線道路ネットワークの弱点解消

・国際物流の動き、特にアジア経済の力強い成長などアジアダイナミズムを取り込み、産業の力を高めていくため、太平洋側と日本海側を結ぶネットワーク強化(多重性の確保やミッシングリンクの解消)を行う必要がある。

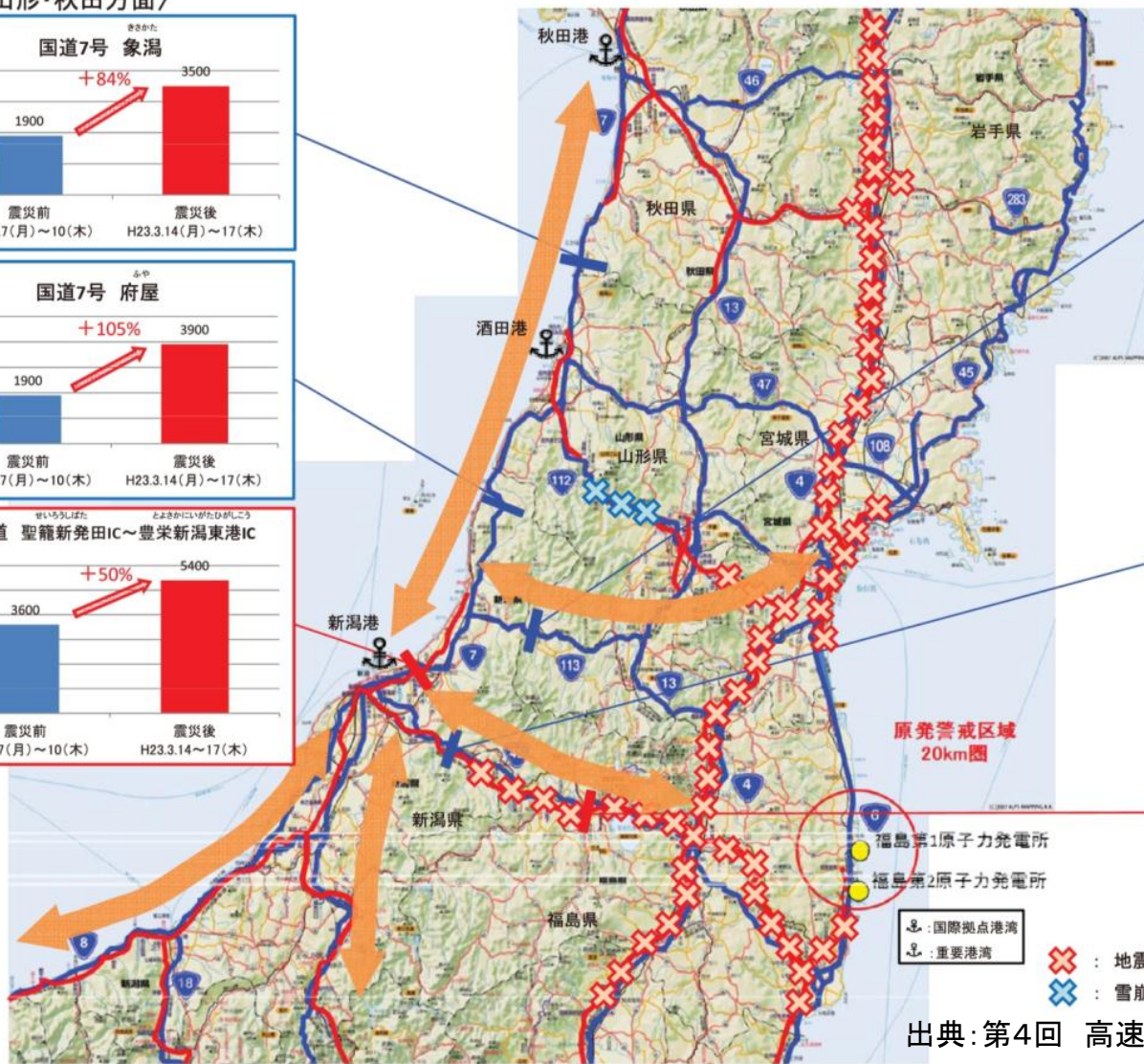
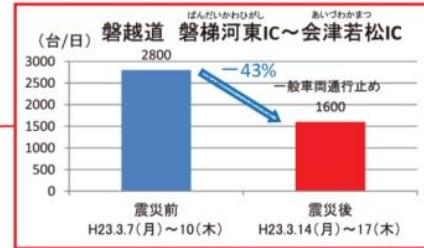
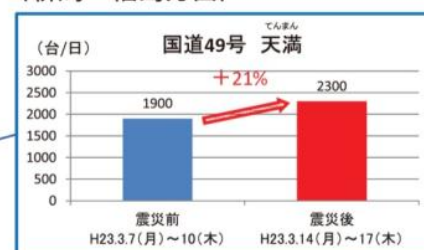
〈新潟⇄山形・秋田方面〉



〈新潟⇄宮城方面〉



〈新潟⇄福島方面〉



- ⚓ : 国際拠点港湾
- ⚓ : 重要港湾
- ⊗ : 地震による一般車両通行止め(高速)
- ⊗ : 雪崩による一般車両通行止め(高速)

出典: 第4回 高速道路のあり方検討有識者委員会資料